

# 今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○4月1日～

今週から新年度がスタートしますが年度末の株価もドル／円レートも高い状態を維持しています。27日にはドル／円は、昨年高値をわずかに上回る151.97円あたりまで上昇しました。

これは、1990年以來の34年ぶりの円安水準です。

株価も1989年の高値を超えてきましたがドル／円もバブル期高値を超えてくるかもしれません。昔と違って、日本は構造的に円高になりにくくなっていることもあり、米国の利下げ時期が遅ければ、さらなる円安進行のシナリオも想定しておいた方がいいかもしれません。

米国よりも先に欧州やカナダ、オセアニアの国が利下げに動く可能性もあり、その場合は利下げに動いた国の通貨は売られやすくなります。

日銀はマイナス金利を解除しましたが、次回の利上げの時期は不透明で、ペースもかなりゆっくりになると思われます。

日本の利上げは海外に比べて難しく、政府債務だけでなく、民間債務も大きく膨らんでいることから利払い問題が深刻になるという指摘があります。

もし、他国並みの数%の金利になれば利払いだけで返済が困難になるリスクがあります。

住宅ローンも変動金利で組んでいる人が多く、利上げの影響は避けられません。

日本は口先介入をしています但円安トレンドが崩れるような大きな動きが出るまでは、今の流れが続く可能性があります。

新年度からマネーがどう動くのか株価なども含めて見ていきたいと思います。

さすがに株、金、不動産が史上最高値を更新してきているため過熱感はかなり出ています。

円安効果もあって円建てで見ると大きく上昇しているように見えますが、ドル建てで見ると日本株も米国株も同じような上昇となっています。

年明けにはわずか3カ月でここまでの上昇になるという予想は皆無だったことを考えると、今後数か月で流れが全く変わることもあるかもしれません。

今週月曜は、欧州やオセアニア地域では31日のイースター(復活祭)の振替休日です。

## ● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル／円>

ドル／円は152円手前まで上昇してきました。

先週1週間の動きを見ると151円あたりで停滞した動きが続いています。

152円を超えると155円を目指す動きが出そうです。

## 今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

中期的には1990年の160円あたりが視野に入りますが介入となれば動きが変わってくるので、予想が難しいです。

買う場合は、下がったところでの押し目買いを狙って、無理に高値を買うことは避けたいです。

下値は、先週安値の151円あたりを割り込むと150円あたりがサポートとして意識されます。

150円台を維持している間は強い動きが続きそうです。

150円を割り込んでくると148円台あたりまでの下げは想定しておきたいです。

今週は、150-152円のレンジをどちらにブレイクするかに注目したいです。

### <気になるクロス円>

クロス円は先週下げているペアも多く、ドル/円の上昇とは動きが違っています。

これは、今の動きが円安というよりもドル高の動きだからです。

米ドルに対して、ユーロやオセアニア通貨(豪ドル、NZドル)などが下がってきているためクロス円で見てもユーロやオセアニア通貨は下がりやすくなっています。

週明けも下がる動きが続く場合は注意がいります。

下げ止まるまでは買いはしばらく様子見が安全かもしれません。

\*クロス円とは円との通貨ペアの総称:〇〇/円というような通貨ペアのことです。

### <今週のファンダメンタル？>

日本では1-3月期日銀短観などがあります。

米国では3月製造業PMI(改定値)、3月ISM製造業景況指数、2月雇用動態調査(JOLTS)求人件数、2月製造業新規受注、3月ADP雇用統計、3月サービス部門・総合PMI(改定値)、3月ISM非製造業景況指数、パウエル・FRB議長発言、2月貿易収支、前週分新規失業保険申請件数、3月雇用統計などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで3月消費者物価指数、3月製造業・サービス業PMI(改定値)、ドイツで2月製造業新規受注、ユーロ圏で2月卸売物価指数、ECB(欧州中央銀行)理事会議事要旨、2月小売売上高などがあります。

ほかには中国で3月Caixin製造業PMI、英国で3月製造業PMI(改定値)の発表などがあります。